

米づくり情報 (NO. 3)

令和2年7月3日

伊万里・西松浦地区農業技術者連絡会作物部会

1 気象概況 (アメダス観測地：伊万里)

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時間	
		平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 mm	本年値 mm	平年値 時間	本年値 時間
6月	4	22.3	22.3	26.8	27.1	18.8	18.7	66.0	93.0	20.6	18.9
	5	23.1	24.6	27.1	30.5	19.9	19.4	84.8	196.0	16.8	38.4
	6	23.8	24.7	27.7	28.5	20.8	22.1	92.5	227.0	15.4	19.5
7月	1	24.6	—	28.4	—	21.7	—	84.2	—	17.9	—
	2	25.4	—	29.3	—	22.5	—	70.2	—	21.3	—
	3	26.1	—	30.1	—	23.0	—	60.6	—	24.1	—

【6月5半旬～6半旬の気象概況】

- 気温は、平年並みからやや高く推移し、日照時間は平年と比較し多照傾向で推移した。
- 降水量は平年よりかなり多く（平年比238%）、6月25日（192mm）と6月27日（187.5mm）は記録的な大雨となった。

2 生育状況 (7月3日)

項目 品種(設置場所)	年次	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	主稈出葉数 (L)	葉色 SPAD	概要
夢しずく 6/1 移植 東山代町脇野	本年値	49.8	312	9.9	41.7	<ul style="list-style-type: none"> • 草丈は、平年よりやや低い • 茎数は、平年並 (※栽植密度が低いためm²当たり本数が少なくなっている。株あたり本数は平年並。) • 主稈出葉数は平年並み • 葉色はやや濃い
	平年値	54.8	366	9.5	43.9	
	平年比	91	85	+0.4	-2.2	
ヒノヒカリ 6/20 移植 松浦町桃川	本年値	18.9	66	5.3	—	<ul style="list-style-type: none"> • 草丈は、平年より低い • 茎数は、平年より少ない (※大雨による一時的な深水により茎数が抑制された) • 主稈出葉数は、平年並み
	平年値	23.2	90	5.5	—	
	平年比	82	73	-0.2	—	
たんぼの夢 6/16 移植 松浦町桃川	本年値	21.9	219	6.3	42.6	<ul style="list-style-type: none"> • 草丈は、平年並み • 茎数は、平年よりかなり多い • 主稈出葉数は、平年並み • 葉色は、やや濃い
	平年値	22.9	104	5.9	39.5	
	平年比	96	210	+0.4	+3.1	

(耕種概要)

品 種	年 次	苗 質		移植日 (月日)	栽植密度 (株/m ²)	備 考
		苗丈	葉令			
ヒノヒカリ	本年値	13.6	2.2	6月20日	17.5	前作 水稻
	平年値	13.1	2.7	6月20日	17.0	前作 水稻
たんぼの夢	本年値	14.4	2.0	6月16日	17.6	前作 水稻
	平年値	13.5	2.9	6月19日	17.2	前作 水稻

※夢しずくの耕種概要は、稲作情報 No.1 を参照。

3 今後の管理

1) 山間早植え水稻（5月上旬移植）

- ・幼穂形成期を迎えている。幼穂形成始期（幼穂長 1 ミリ）を迎えた圃場では、次の表を参照し穂肥を施用する。
- ・梅雨に入り曇天の日が続いているため、「いもち病」などの発生に注意する。特に本年は移植後の生育が良好で茎数が多い圃場においては、病気が発生しやすくなるため注意深く観察し、病斑が確認された場合は速やかに防除を実施する。

幼穂形成始期の草丈(cm)	葉 色		施 用 時 期		穂肥施用量 (kg / 10 a)	
	群 落	SPAD-502	出穂前日数	幼 穂 長	窒素成分量	BB602
	3.0以下	34以下	22~20日前	1 mm	3.0	18 kg
73cm以下	3.0~3.5	38以下	20~18日前	2 mm	3.0	18 kg
	3.5~3.8	38~39	15~14日前	10~15mm	1.5~2.0	10~12kg
	3.8以上	40以上	晩限は止葉抽出終了まで		1.0以下	6 kg
73~79cm	3.0~3.5	34以下	20~18日前	2 mm	1.5~2.0	10~12kg
	3.5~3.8	38~39	15~14日前	10~15mm	1.0	6 kg
	3.8以上	40以上	施 用 し ない			
80cm以上	原 則 と し て 施 用 し ない					

【穂肥診断の方法】

- ①幼穂形成始期頃の草丈を測る。
 - ②葉色（群落・SPAD値）を測る。
 - ③上記①②の測定値を診断指標に当てはめ、施用量を確認する。
 - ④施用量が確認出来たら、記載された施用時期に穂肥を施用できるよう準備する。
- ※穂肥が施用できるのは、葉色が「笹の葉色以下（3.5以下）」になってからである。

2) 普通期水稻「夢しずく」

- ・有効茎（1株当たり20本程度）が確保できた圃場から順次中干しに移行する。
- ・ガス対策として移植後15日、25日頃は夜干しなどを行い、根の活力を高める。
ただし、用水確保が難しい地域では落水せずに湛水状態を保つようにする。
- ・中干しは約1週間、土壌表面に軽い亀裂が入り、足跡がわずかにつく程度とし、中干し後は間断灌水を行う。なお、中干しを強めにした圃場（手が入るほどの亀裂がある）では、一端通水し、ならしをしてから間断灌水に移行する。
- ・移植後に湛水状態が保てず、除草剤処理後の水管理が徹底できなかった圃場では、ヒエ、コナギやホタルイ等の雑草の発生が散見される。速やかに、中後期除草剤等による防除を実施する。

3) 普通期水稻「たんぼの夢」、「ヒノヒカリ」等

- 除草剤処理後 1 週間経過した圃場は、浅水管理に移行し莖数確保に努める。
- 今後も降雨が予想されるため、大雨の際は水尻を低くし長時間の冠水を避ける。

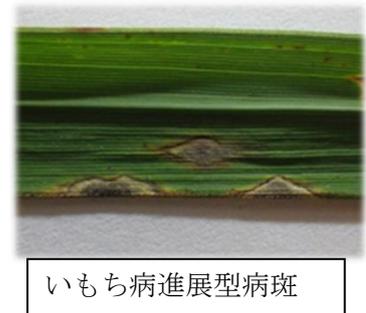
※除草剤は、散布後 3 日経過すれば有効成分が土壤に吸着されるが、除草剤の処理層が安定するまでは湛水状態（水尻を止水し自然落水を待ち田面が見えてきたら入水するなど、土壤表面が白乾状態にならないようにする）を 1 週間程度保つようにする。ただし、除草剤散布後 24 時間以内に、大雨等によりオーバーフローした場合、1 週間後の雑草発生状態を確認し除草剤効果が期待できない場合は、中後期剤等での防除を行う。

4) 共通

○病害虫防除

(いもち病)

- 6 月 19 日までの BLASTAM 情報（気象条件のみによって葉いもちの発生を予測するシステム）によると、伊万里では 6 月 12 日に葉いもちの感染好適条件が観測されている（好適条件が観測された 1 週間後に初発生や病斑数の急激な増加が予想される）。今後発生状況に注意し、進展型病斑が確認された圃場では、オリブライト粒剤等で速やかに防除を行う。
- 圃場内に放置されている補植苗は「いもち病」や「ごま葉枯病」の温床になるためすみやかに除去する。



いもち病進展型病斑

(ウンカ類)

- 佐賀県嬉野市では、6 月 11 日に 11 頭のトビイロウンカの飛来が確認されており、この飛来波の今後の発生予測は次ページのとおりである。
- 今後の飛来状況により、発生予測図は随時更新される（梅雨明けまで飛来が続く）。
- 防除時期については、今後の飛来状況や圃場条件（移植時期や品種、圃場の場所等）によってウンカ類の発生量が異なるため、注意深く圃場を観察する。
(※長崎県諫早市でも、平年より早い 6 月 11 日にトビイロウンカの誘殺が確認されている。)

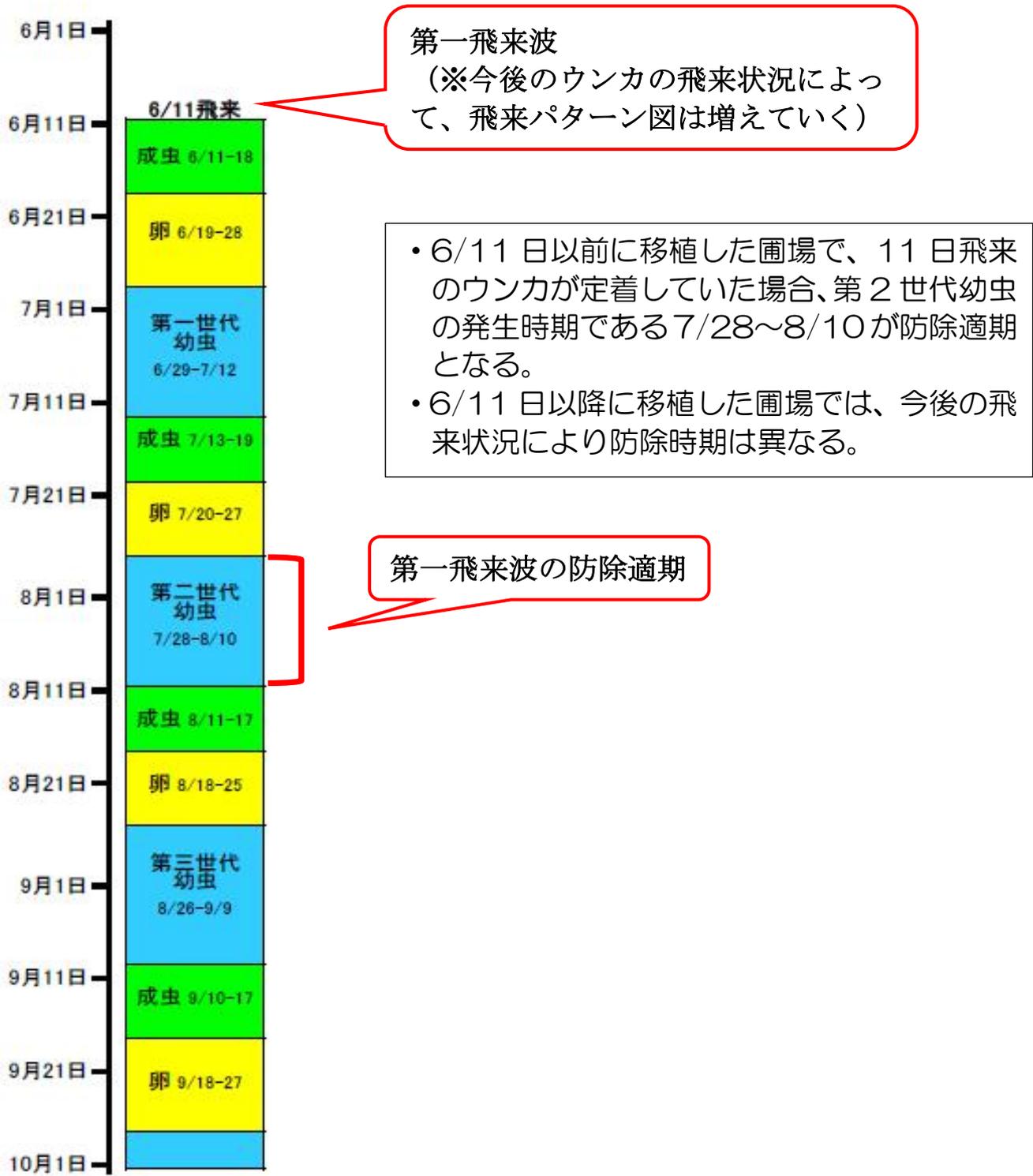


図1 トビイロウンカ各世代の発生予測(第1版、2020年6月23日)

1. 6月11日の飛来虫を起点とし、佐賀市川副町の気温データより算出した有効積算温度(6月23日以降は平年値)を基に作成。

2. 6月11日頃の飛来虫は、普通期水稲にはほとんど定着していないと考えられる。

3. 今後の飛来状況および気象経過に応じて、**本図は随時、更新する。防除の考え方**等については、**今後の発生予測図の中に記載**していく予定である。

これらの**最新情報**は、農業技術防除センターの**ホームページ**で確認する。

令和2年産水稻生育期間気象グラフ (アメダス：伊万里)

西松浦農業改良普及センター

